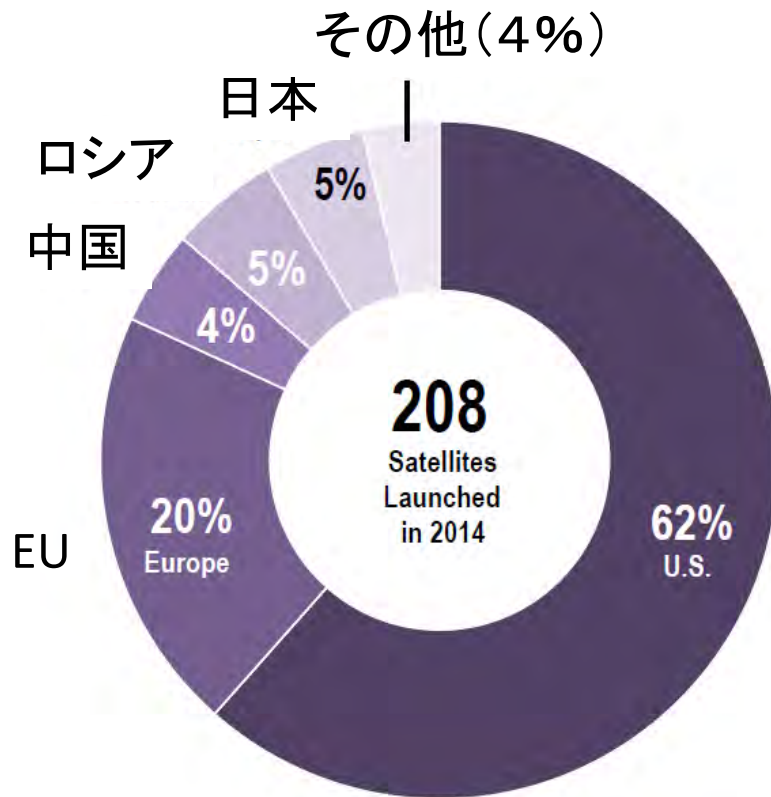
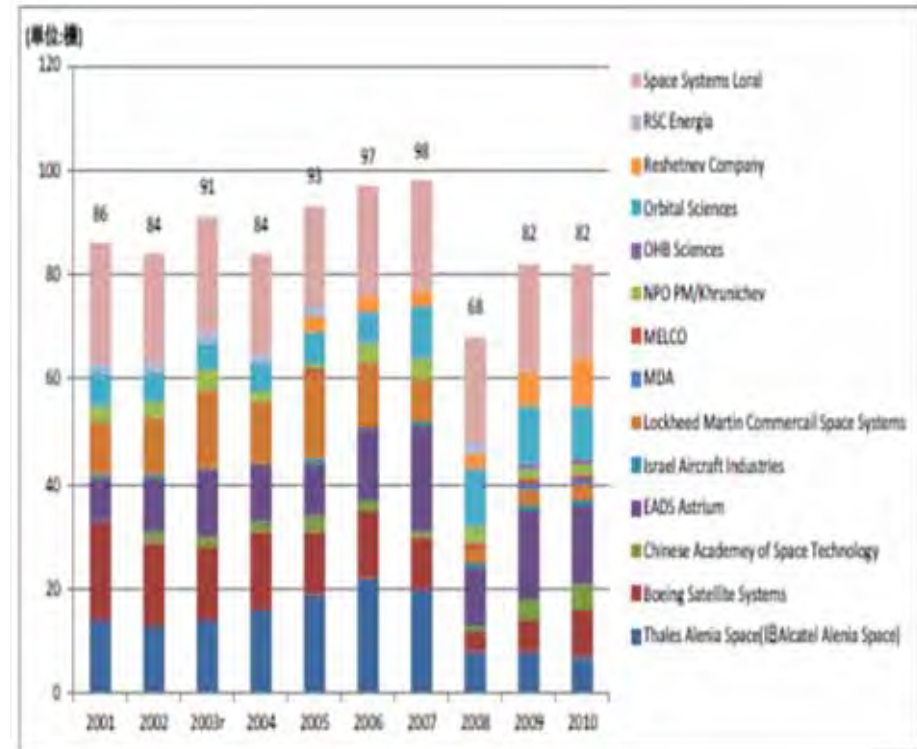


衛星機器市場の動向

- 世界の衛星売上シェアは、米国が約6割、欧州が約2割、さらに日露中等が続いている。
- 人工衛星で最大のマーケットである静止軌道衛星分野では、米国及び欧州企業が受注をほぼ独占。我が国の占める割合は大きくない。



各国の衛星製造メーカーの売上シェア(2014年)



商用静止衛星の企業別受注残数推移

- 注：
- ・受注キャンセル、発注保留分は含まない。
 - ・受注済みの機数は含む。
 - ・推定価格は最速な入手可能公開情報による AIA 推定値。
 - ・各年に発注された衛星と打上げられた衛星も含む。

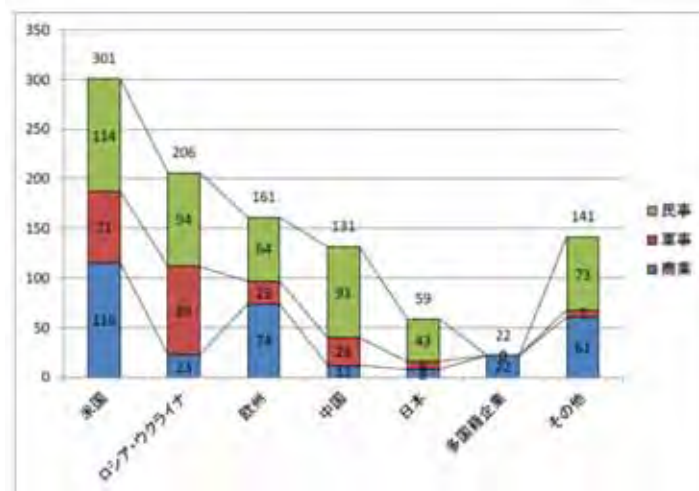
出典: AIA「Aerospace Industry Report 2011」, p231 (ただし元データは Futon 社)

ロケット打上げサービス市場の動向

- 衛星の打上げサービスでは、米国、ロシア、欧州の占める割合が高く、続いて中国、日本という順番となっている。
- このうち、商業ベースの打上げサービスでは、米国、欧州、その他の国との順番となる。



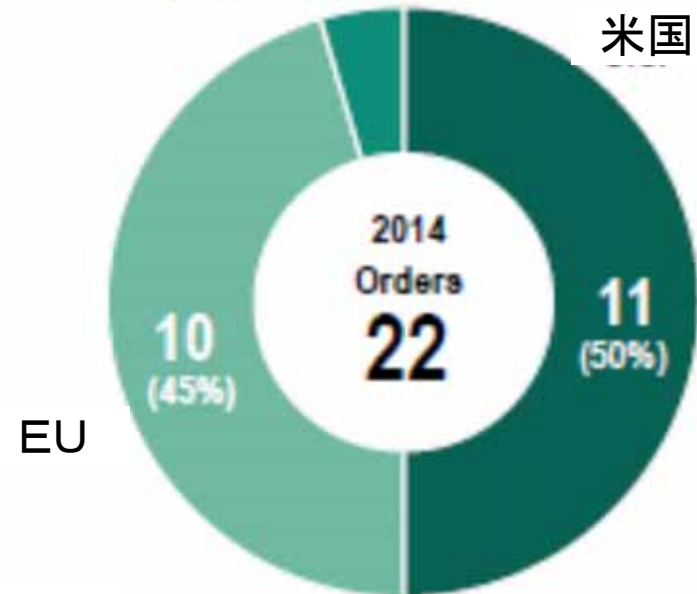
世界の打上げ実績(2005年～2014年)



国別衛星打上げ機数(2005年～2014年)

出典：「平成26年度宇宙産業データブック」（一社）日本航空宇宙工業会

ロシア : 1 (5%)



国別商用打上げサービス受注数(2014年)

出典：State of the Satellite Industry Report2015

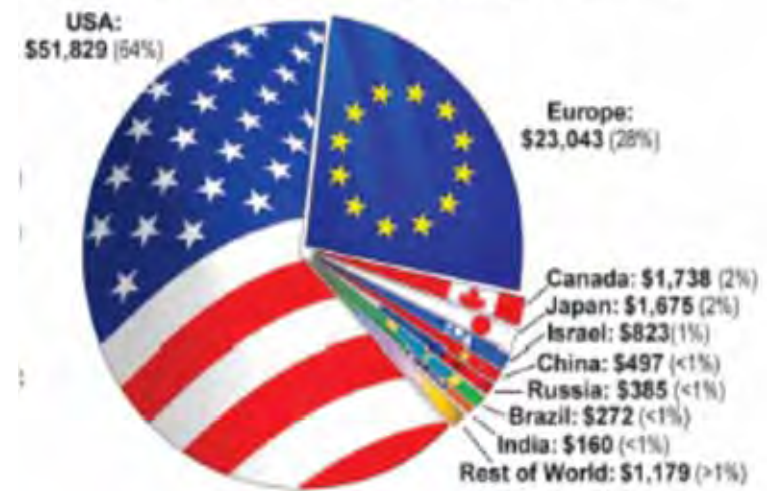
宇宙関連企業ランキング

- 世界の宇宙機器ビジネスでは、最大の市場を有する米国企業が上位を占め、続いて欧州企業が並ぶ構図。
- 商業衛星市場トップのスペースシステムロラールは16位、商業打ち上げ市場トップのアリアンスペースは15位。我が国企業は19位が最高。

順位	企業名	売上額(百万\$)	事業概要
1	(米)ロッキードマーティン	11,440	衛星、ロケット、地上設備など製造、サービス
2	(米)ボーイング	8,673	衛星、ロケット、地上設備など製造、サービス
3	(欧)エアバス	6,428	衛星、ロケット、地上設備など製造、サービス
4	(米)ノースロップグラマン	5,008	衛星機器、地上設備製造、技術支援など
5	(米)レイセオン	4,629	衛星機器、技術支援、ソフトウェアなど
6	(米)ガーミン	2,760	GPS関連機器、ソフトウェア
7	(欧)タレスアレニアスペース	2,680	衛星、衛星関連機器など
15	(欧)アリアンスペース	1,311	ロケット打ち上げサービス
16	(米)スペースシステムロラール	1,108	衛星製造
19	(日)三菱電機	930	衛星、衛星関連機器、地上設備製造など

世界上位75社の国別売り上げ

Company Revenues by Country, 2011 (US\$ Millions)

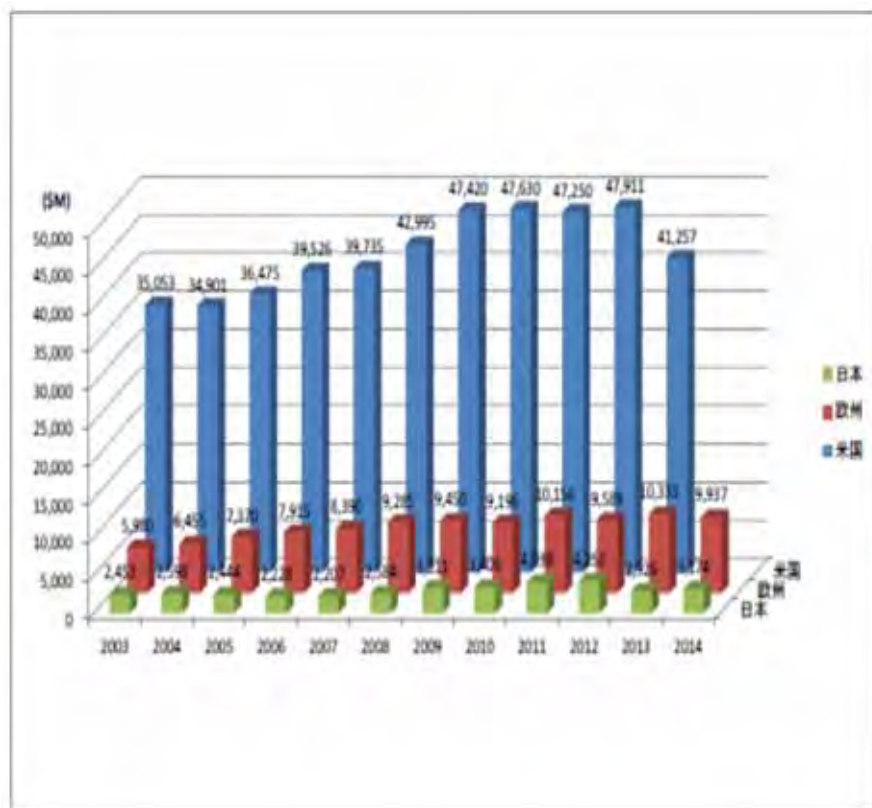


出典: Futron's 2014 SPACE COMPETITIVENESS INDEX

出典: 米Space News(2011Top 50 Space Industry Manufacturing and Service)より経済産業省作成

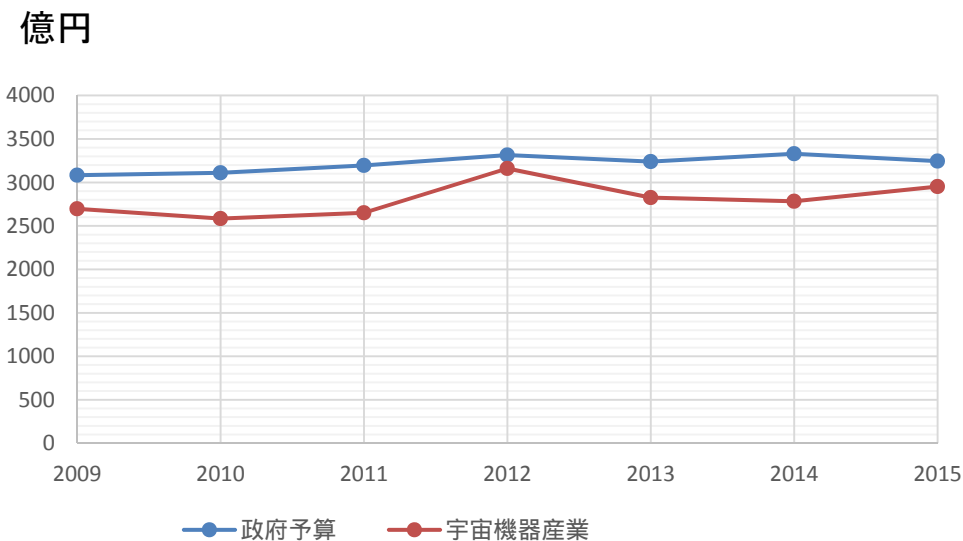
宇宙予算と宇宙機器産業

- 宇宙機器産業の最大の需要者は政府。日米欧の政府宇宙予算を比較すると、米国が圧倒的に大きく、次いで欧州、日本の順。
- 我が国企業の宇宙機器分野の売上高は政府の宇宙開発予算を下回る状況が続いている。



日米欧の宇宙予算推移

出典: 「平成25年度宇宙産業データブック」日本航空宇宙工業会

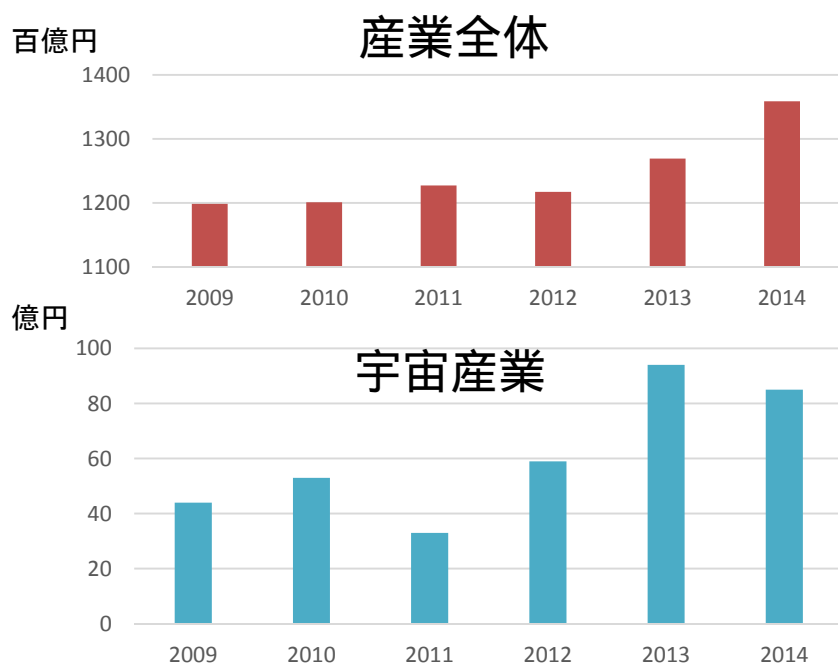


政府予算と宇宙機器産業の売上げ額

出典: 内閣府資料、平成26年度宇宙産業データブック(日本航空宇宙工業会)に基づき内閣府作成

宇宙機器産業の研究開発・設備投資動向

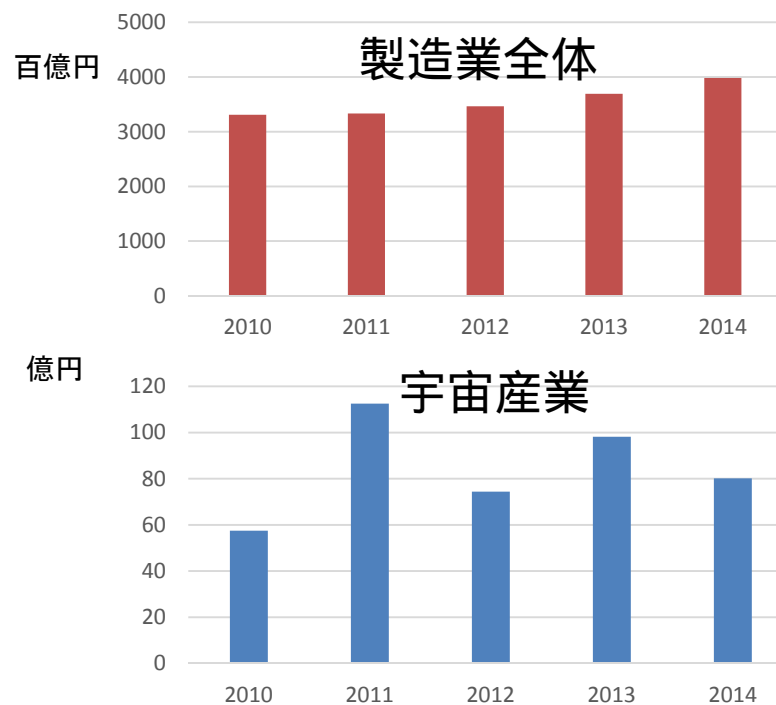
▶我が国宇宙機器分野の研究開発費、設備投資は一定の水準で行われているが、高くない。



日本の産業全体の研究費推移(上段)と
宇宙機器産業の研究開発費推移(下段)

出典：

- (宇宙産業) 平成27年度宇宙産業データブック (一社) 日本航空宇宙工業会
- (産業全体) 平成27年度 科学技術研究調査 (総務省) より、研究主体別研究費のうち企業分



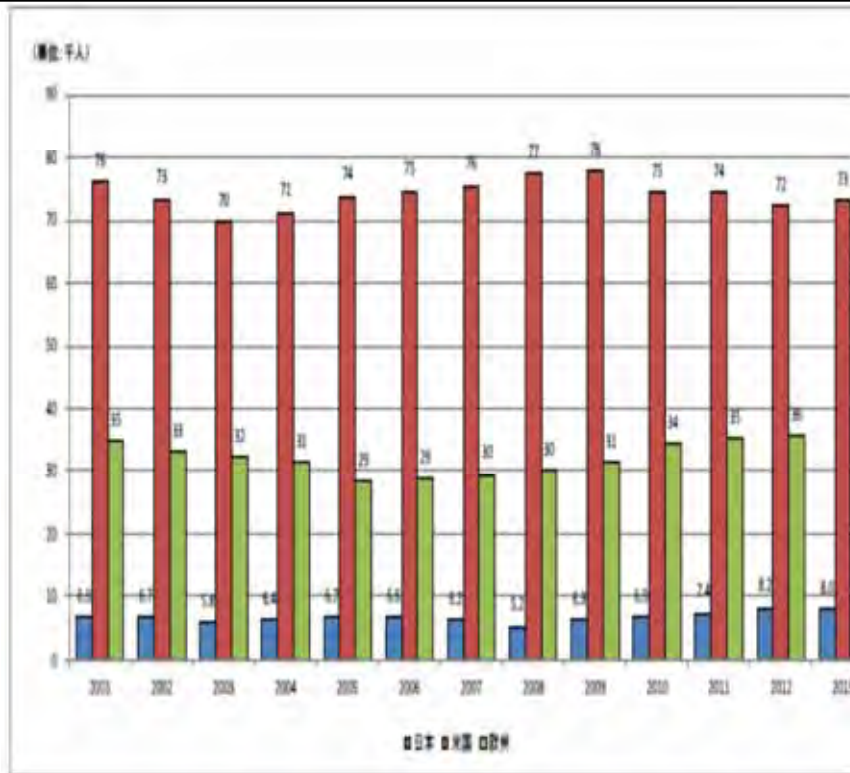
日本の製造業の設備投資推移(上段)と
宇宙機器産業の設備投資推移(下段)

出典：

- (宇宙産業) 平成27年度宇宙産業データブック (一社) 日本航空宇宙工業会
- (製造業全体) 法人企業統計調査結果 (平成26年度) (財務省)

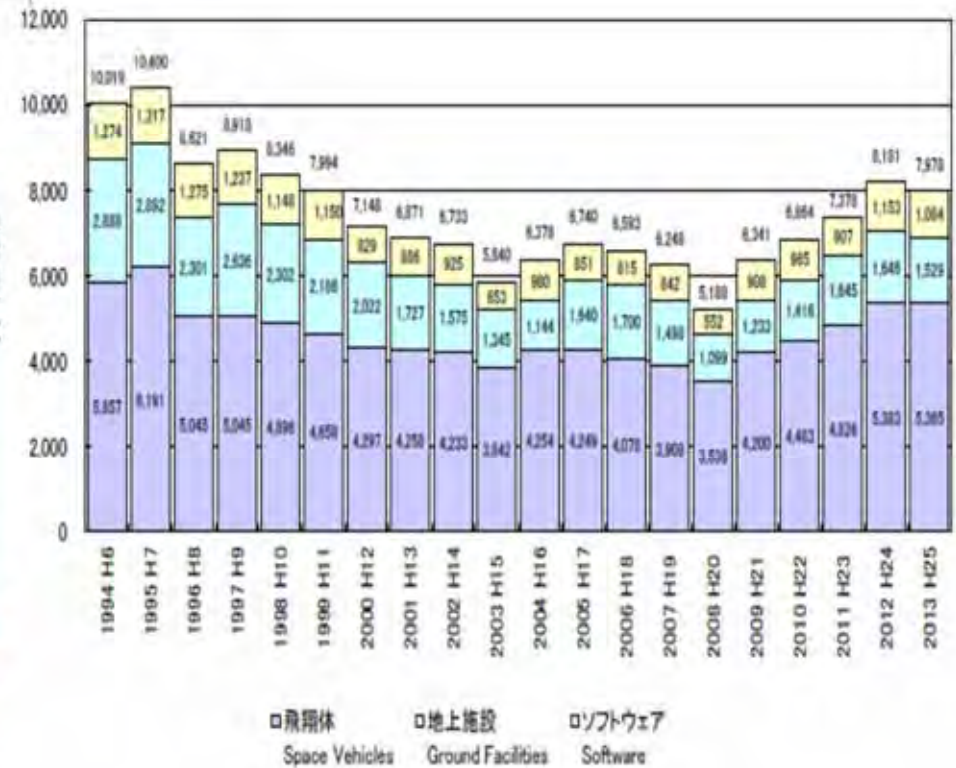
宇宙機器産業の人材

- ▶ 宇宙機器分野に関わる人材数を日米欧で比較すると、圧倒的に米国が多く、次いで欧州がその半分弱程度、日本は米国のおおよそ1割程度となっている。
- ▶ 我が国の宇宙機器産業の従業員数トレンドを見ると、90年代から2000年代後半まで一貫して減少傾向が続き、2000年代後半には最盛期の6割弱まで減少。その後、2010年代になり上向いているが、90年代の人材数を引き続き下回っている。
- ▶ 国内の大手宇宙企業の新規採用者数は限定的であり、宇宙分野の専門教育を受けた人材が十分に活用されていないとの指摘もある。



日米欧の宇宙産業の人員数比較

出典：「平成26年度宇宙産業データブック」（一社）日本航空宇宙工業会



日本の宇宙機器産業の人材構成の推移

出典：「平成26年度宇宙産業データブック」（一社）日本航空宇宙工業会

安全保障と宇宙産業

- ▶ 世界各国の打上げ衛星の相当部分は安全保障用途が占めており、米口を筆頭に欧州等でも一定の割合。
- ▶ 同様に各国の宇宙開発予算の相当程度(約3割~7割)は安全保障用途であるとされている。

